

140) ヒメヌメリイグチ (新種)。小形で茎は細長く、かさ・茎ともに粘液におおわれ、粘膜質早落性のつばがある。外観は *Boletellus longicollis* (Ces.) の小形のものに酷似するが、胞子の形態が全くちがう。キクバナイグチ属 *Boletellus* の *Ixocephali* 節とヌメリイグチ属 *Suillus* との中間型ともみられ、Corner に従えば、ヌメリイグチ属の祖先型に近いもののように思われる。大津市石山千町のアカマツーコナラ林で採集。青木実氏によれば、埼玉県所沢市にも産するという。和名は同氏の命名である。

141) オオミ (大実) ノクロアワタケ (新変種)。クロアワタケ *B. griseus* Frost var. *griseus* に比して黒味が強く、肉はやや紅変し、胞子は大形である。大津市内諸所のコナラ・アラカシなどをまじえたアカマツ林内で採集。夏から秋にかけて、西日本でふつうにみられる。

### ○北海道第四紀産ツガ材 (西田 誠) Makoto NISHIDA: Occurrence of *Tsuga* sp. from the Pleistocene of Hokkaido

北海道理科センター (札幌市) の佐々木太一氏から、広尾郡広尾町の郊外、楽古川の段丘に発達するピラオトリ層から産出した植物遺体の同定を依頼された。その多くはイネ科またはスゲ科と思われる草本の根であったが、中に1点、長さ15 cm、直径1.5 cm ほどの小枝があった。それを鏡検したところ、ツガ属の枝であることがわかった。すなわち、材は仮道管、放射組織および点在する木部柔組織からなり、さらにしばし

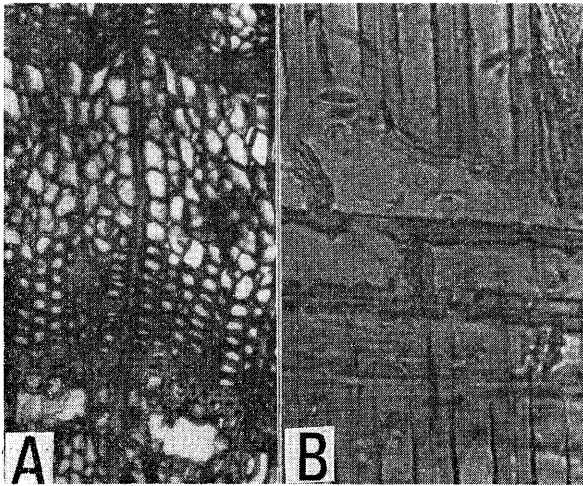


Fig. 1. Cross (A) and radial (B) sections of *Tsuga* sp. from the Pleistocene of Hokkaido. Traumatic resin canals are seen in A. Ray tracheid and simple pits on horizontal walls of ray cells are exhibited in B.

ば傷害樹脂道 (traumatic resin canal) がある (写真 A)。仮道管の壁上の有縁孔は普通の針葉樹型であり、1~2 列に分離して並び、2 列の場合には対生的に配列する。放射組織は常に 1 列で、高さは 3~13 細胞高で、しばしば髄線仮道管 (ray tracheid) が認められる。髄線柔細胞 (ray cells) は水平壁にも切線壁にも単膜孔 (いわゆるモミ型膜孔: abietineous pitting) がある (写真 B)。直交分野にはヒノキ型の半有縁孔が、春材では 4 個、秋材では 2 個見られる。モミ型膜孔をもち、通常の樹脂道ではなく、傷害樹脂道をもつ材はツガ属の材である。しかし、材の構造上からは、ツガとコマツガを区別することは出来ない。

ピラオトリ層はピートを含んだ砂礫層で、一般には第四紀の下部といわれているが、一部では第三紀の最上部の池田層とも対比されている。しかしその絶対年代はまだ詳らかではない。いっぽう、パリノロジーの分野からは、釧路地方の大楽毛層 (洪積世後期: Riss 氷期または Riss-Würm 間氷期に対比される) から、トウヒ属 (エゾマツ?), モミ属, マツ属, ナラ属の花粉にまじってツガ属の花粉が知られている。(第四紀総合研究会専報 15 号「日本の第四系」1969。) 現在、北海道にはツガ属の植物は分布していないが、少なくとも第四紀のはじめには、北海道にもツガ属植物が生育していた。

(千葉大学 植物系統学研究室)

### ○*Scrophularia mandshurica* Maxim. と *S. koraiensis* Nakai について (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: On *Scrophularia mandshurica* Maxim. and *S. koraiensis* Nakai

以前、東亜のゴマノハグサ属を報告したとき、*S. mandshurica* の実体がわからなかったのでふれなかった。たまたま、カルカッタ植物園に Komarov が, Fl. *Manshuriae* に *S. mandshurica* として引用した、Ussuri, Sidemi river の重複標本があるのをみつけた。これは *S. koraiensis* と異なるものであった。また 1969 年にソ連の Hort. Bot. Siber., Acad. Sci. から、*S. mandshurica* の種子をもらって、小石川植物園で栽培した所、*S. koraiensis* と同じものと考えられるものであった。分布も連続するので同一種類としてよいと思う。

(東京大学理学部)

*Scrophularia mandshurica* Maxim. in Bull. Soc. Nat. Mosc. 54: 35 (1879). Komarov, Fl. *Mansh.* 3: 413 (1907). Gorschkoba in Fl. U. R. S. S. 22: 262 (1955).

*Scrophularia koraiensis* Nakai in Bot. Mag. Tokyo 23: 189 (1909). Yamazaki in Journ. Jap. Bot. 23: 85 (1949), 37: 265 (1962). syn. nov.

*Scrophularia erecta* Stieferhagen in Bot. Jahrb. 44: 458 (1910).

Distr. Northern Korea, Ussuri and eastern Amur.